

泳力の向上を図る手立てについて

～夏季休業日のプール参加と泳力実態をもとに（2年次研究）～

大田区立おなづか小学校 教諭 津田圭介

1 研究主題設定の理由

「昨年度（2006年度）の調査報告より」

本校児童の泳力について、大田区立小学校水泳技能検定表に基づき実態を把握した。その結果、本校児童の級別分布（図1）を見ると、8級と4級と1級に山があることがわかった。特に8級には全校児童の約25%の児童がいた。ここに泳力向上のポイントとなる一つの壁、つまり「7級の壁」の存在が明らかになった。この7級に課されている「かえる足ができる」に着目し、6年間を見通したときの泳力向上のポイントを次のように設定した。

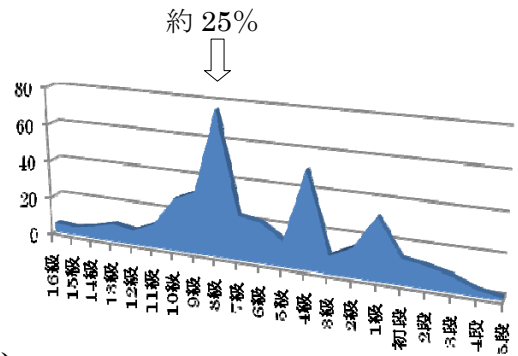


図1：児童の級別分布（2006年度）

- ・2年生までに8級を習得すること。
- ・3～4年生でかえる足（7級）を習得すること。
→そのためには夏期水泳教室に10回以上参加することが有効である。

3～4年生時に7級を取得することができた児童は4級までスムーズに昇級し、ついで5～6年生時には1級までステップアップする傾向にある。しかし、高学年になると様々な要因から参加率が低下することも昨年の調査で明らかになっていることから、低・中学年時に上述のような泳力向上の見通しを児童にもたせることがポイントである。さらには保護者にも理解を得て、夏休みの水泳参加を積極的に促してもらうことが今後の課題となった。そこで、これらを踏まえて指導を行った結果、今年度（2007年度）はどのような変容があったのか追跡調査を行い、前年度の研究報告を検証することを本研究の目的とした。

2 調査方法

本校児童を対象とした聞き取り調査（有効回答率99%）

- | | | |
|------|------------------------------------|--------------------------------|
| 調査項目 | <input type="radio"/> 夏休み前の級・段 | <input type="radio"/> 夏休み後の級・段 |
| | <input type="radio"/> 夏休み中のプール参加回数 | |

3 結果と考察

- ①参加率の増加

夏期水泳教室への参加率を上げるため、7月の保護者会で学年に応じた泳力向上のポイントを説明し、夏休みの水泳参加への積極的な押し出しをお願いした。また、夏期水泳教室実施中も電話による参加の呼びかけや積極的に参加している友だちからの勧誘などを促した。

(* 参加率とは次のような計算式で表したものである。)

$$\text{参加率(\%)} = \text{延べ参加者数} \div (\text{学年の児童数} \times \text{プール実施日数})$$

表1：学年別参加率

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
2006年度	51.3%	49.1%	52.0%	42.1%	46.4%	32.5%
2007年度	66.7%	56.0%	56.6%	53.1%	38.0%	43.6%

表1は学年別の参加率を前年度(2006年度)と比較したものである。今年度(2007年度)は5つの学年で参加率が大きく増加した。これは、個々人が目標を明確にもてたことによる参加意欲の向上と、保護者の理解・協力による水泳教室参加への促しによるものと考えられる。

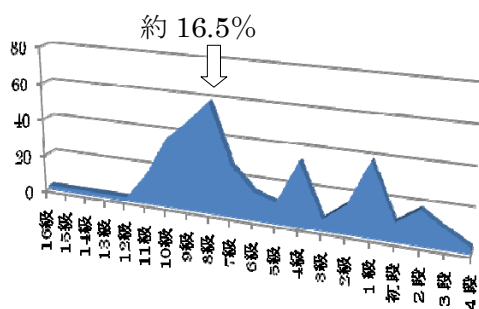


図2：児童の級別分布（2007年度）

では、この参加率の増加は今年度の泳力向上にどう影響したのだろうか。今年度(2007年度)の夏期水泳教室終了後の級別分布を示したものが図2である。

これを見ると、昨年度同様やはり8級、4級、1級に3つの山が見られている。昨年度よりも割合は減少したものの、依然として8級には16.5%と多くの児童がいる。次に、この8級の児童群が昨年度から停滞しているものなのかどうかを考察した。

②4年生の変容

昨年度の研究では「3～4年生時に7級(かえる足)を習得する」ことを泳力向上のポイントとしてあげている。図3は今年度の4年生(昨年度3年生)の変容を示したものである。

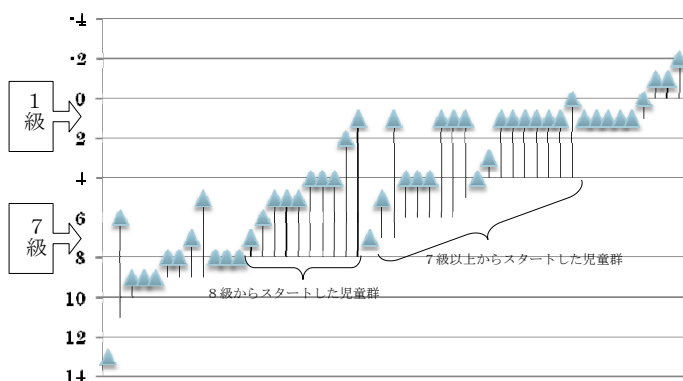


図3：4年生の伸び

今年度8級からスタートした児童群は、参加率の増加に伴い、7級を順調に習得し、5～4級まで級を伸ばしていることがわかる。また、昨年度のうちに7級を習得している児童群は、その多くが1級まで級を伸ばしていることがわかる。

さらに図4. 図5は現4年生の級別分布の変容を昨年度のものと比較して示したものである。

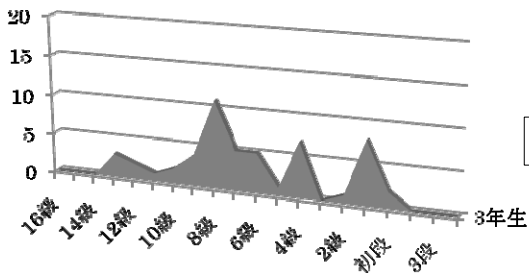


図4： 4年生が3年生の級別分布

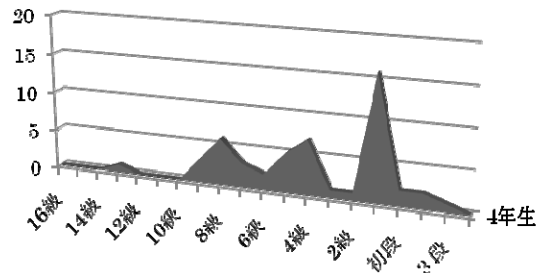
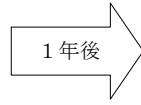


図5： 4年生の級別分布

昨年度も今年度も同様に3つの山が形成されているが、図3からも明らかなようにその内訳は大きく変化しているのである。つまり、図2に示した8級の児童群(16.5%)は昨年度から引き続いて停滞しているものではなく、新たに8級に進級してきた児童群であるということがいえる。ここに、8級→4級→1級というステップが、泳力向上を見通す際のひとつの目安となり得ることが明らかとなった。

③2年生の8級習得率

泳力向上の最初のステップとして、「2年生までに8級を習得する」というポイントを設定した。図6は今年度の1, 2年生の級別分布を示したものである。今年度の2年生の8級習得率は31.1%であった。3~4年生で7級を習得させるには2年生時の8級習得率をさらに上げることが今後の課題となる。

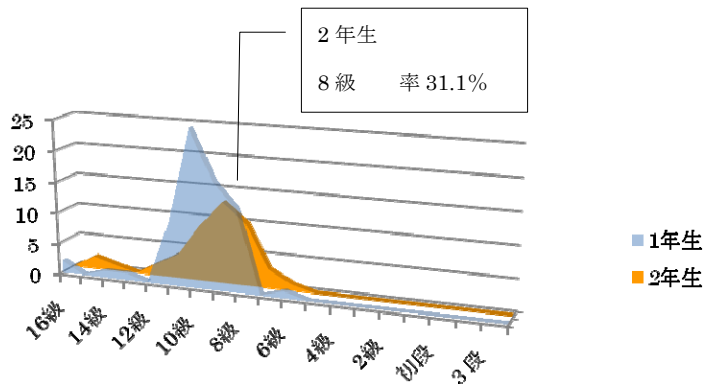


図6： 1・2年生の級別分布

④夏休みに10回以上参加することが、7級を習得するのに有効であることの証明

8級に所属している児童の伸びを、10回という参加回数を基準にして伸び幅の違いを比較したものが図7である。

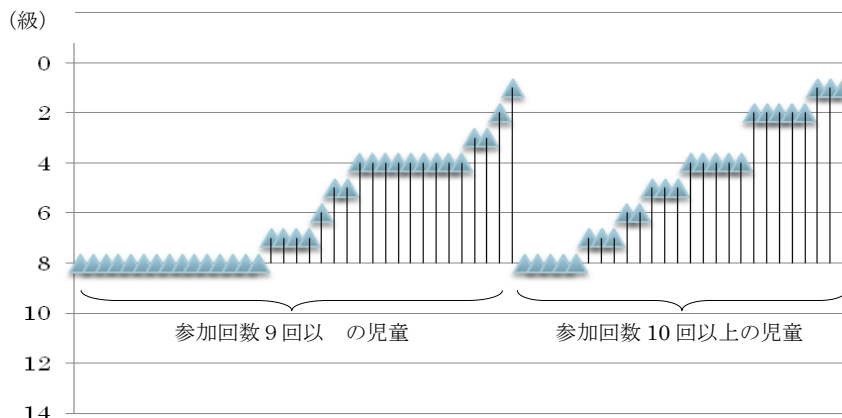


図7： 8級からの伸び

参加回数が9回以下場合でも大きく級を伸ばしている児童はいるものの、8級で停滞してしまっている児童が多くいることがわかる。10回以上参加した児童の伸びを見てみると、8級で停滞してしまっている児童も若干見られるが、級を順調に伸ばしている児童が多いことがわかる。断定はできないものの、夏期水泳教室に10回以上参加することは、「かえる足(7級)」の習得に有効だと考えられる。

⑤期待される児童像

図8は8級の山を形成している児童群の学年別内訳を示したものである。3年生の占める割合が25%と大きくなっている。つまり、「かえる足」の習得を目指して取り組んでいる児童が3年生に多いということである。これは本研究において理想とする傾向であり、かつ、ここで「かえる足」を習得できないと今後の泳力の向上が望めないという大きなポイントでもある。

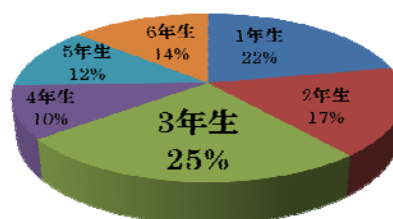


図8：8級の学年別

図8に見られる「8級に所属する3年生の児童群」が、来年度夏期水泳教室に10回以上参加することで7級に課されている「かえる足」を習得する。そして、その後も「かえる足」をバネに泳力を伸ばしていくという姿が、本校の水泳指導において期待される児童像である。

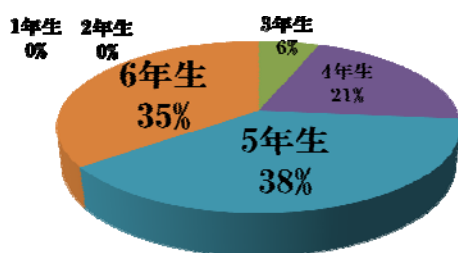


図9：4級の学年別

さらに、4級に所属する児童群の学年別内訳を示したものが図9である。高学年の占める割合が7割以上となっている。これは、中学年時に「かえる足」を習得できたという結果の表れである。なお、本校高学年児童の平泳ぎ習得率は71%である。

4 まとめ

1年次の研究で示した泳力向上のポイント

- ・2年生までに8級を習得すること。
- ・3～4年生でかえる足(7級)を習得すること。
- そのためには夏期水泳教室に10回以上参加することが有効である。

2年次の研究では、上記のポイントが泳力向上を図る上でひとつの指針となり得るということが明らかになった。「水泳」は「球技」などとは違い、その特殊性から考えるとこの小学生期に習得することが望ましいと考えている。学習指導要領では「呼吸をしながら25～50m程度の平泳ぎ」を身につけるということが例示されている。高学年になるにつれ「泳げない」ことは参加意欲の減退につながり、それが中学・高校ともなればなおさら加速するのである。小学校低・中学年時に徹底して泳力向上を図ることは、水難事故から身を守る上でも、また生涯にわたってスポーツのある豊かな生活を実践していくためにも必要不可欠なのである。